



定例会のあらまし

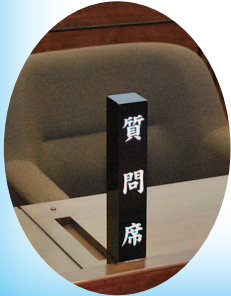
平成26年9月（第3回）定例会を、9月4日から25日までの22日間にわたり開催しました。

この定例会において、17議案が提案され、その内、赤穂市国民健康保険事業特別会計補正予算など14議案については、全会一致で可決、同意し、一般会計補正予算など3議案については、賛成多数で可決しました。また、平成25年度の決算認定及び平成25年度市民病院事業会計資本剰余金の処分等については、決算特別委員会を設置し、閉会中の継続審査を行うこととしました。

市政の課題 将来の展望を

質す

9月24日（5名）、25日（3名）に計8名が登壇し、豆田市長に対し、市政の課題や将来展望に対する考え方について一般質問を行いました。



軽い病気で 保育児童等の 病児保育について

釣 昭彦 議員



問

普段保育所に通っている子どもが風邪等軽い病気にかかり、集団保育が不可能な場合、閣議決定された病児保育制度の子ども子育てビジョンでは、平成26年度までに全ての保育所において取り組みを推進するとされているが、本市での扱い、今後の運用はどうされるのか。行政サービスを進めるべきと考えるがどうか。

答

病児保育については、人員配置や施設規模が既存施設等では充足しないことから、実施には至っておらず、現在のところ、保育所では、傷病時には家庭へ連絡し、医療機関への受診や家庭での保育などで対応している。



平成27年4月から本格実施する予定の子ども・子育て支援新制度に向け、現在、「子ども・子育て支援事業計画」の策定に取り組んでいるところであり、病児保育事業は、この計画で盛り込む予定としている。

その他の質問事項

● 観光地での公衆トイレについて

他

産婦人科の 入院・診察の対応は

竹内友江 議員



問

妊娠中の母親が診察又は母親学級・マタニティビクスを受けている間、同伴した子どもを病院側はどのように対応されているか。母親は子どもを仕方なく連れて来ている。ボランティア・看護師が見ていると聞いているが、院内託児所に余裕があるのなら、託児所で見ることができないのか。

答

市民病院産婦人科に子ども連れで診察に来た方には、必要に応じてボランティアや看護師が、診察室近くで子どもを預かっている。また、母親学級・マタニティビクスは子どもと一緒に参加することができ、母親と同じスペース内で看護師等が状況に応じ対応している。

母親の近くで子どもを見ることにより、子どもや母親にとっても、安心して診察等を受けていただけるものと考えている。

院内託児所については、あくまで院内保育所という位置づけであり、法的な制限はないが、職員配置等病院の運営上、来院者の子どもは預かっていない。

その他の質問事項

● 赤穂市民病院看護師らの確保について



市民病院託児所